

東京大学
21世紀COE 未来社会を担うエレクトロニクスの展開
特別講演会

私のオリジナリティ

—その契機、手応え、そして展開—

独自の成果を達成した本COEの担当教授たちが、研究の着想と提案の契機、壁を破る工夫、手応えの瞬間、現在に至る展開を紹介し、研究におけるオリジナリティについて講演します。本COEでは、期間中に担当教員が4年続けて「日本IBM科学賞(エレクトロニクス部門)」を受賞しました。この4名の教授と紫綬褒章を受章した2名の教授が、独自の研究の推進の要件とは何か、意欲、偶然、必然、感動、等を語ります。



日時 **2月5日(月)** 13:30~17:00
場所 東大工学部 2号館 1階 213大講堂



日時 **3月1日(木)** 13:30~17:00
場所 東大工学部 2号館 1階 213大講堂



ナノフォトンクス

—光科学技術の革新への道—

大津元一 教授 (大学院工学系研究科 電子工学専攻)

紫綬褒章受章 (平成16年)、日本IBM科学賞受賞 (昭和63年)

「真の革新は性能を向上させること(量的変革)にあるのではなく、無から有を生む(質的変革)にあります。光技術の質的変革の例として、ナノフォトンクスの開拓の経緯を説明します。この研究は「新しい光を作りたい」というwants型の動機から始まりました。」



継続は力なり

—MOSトランジスタに取り組んだ25年とこれから—

高木信一 教授 (大学院新領域創成科学研究科 基盤情報学専攻)

日本IBM科学賞受賞 (平成16年)

「取り組むことが心から楽しいと思える対象を是非見つけ出してください。」



研究も素朴な興味から

—画像圧縮からの始まり—

相澤清晴 教授 (大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻)

日本IBM科学賞受賞 (平成14年)

「興味を持つことが始まりで、素朴な興味は大事にするといひ。」



異種分野の融合と横断的思考を試みる

—スピンを生かした新しいエレクトロニクスの開拓—

田中雅明 教授 (大学院工学系研究科 電子工学専攻)

日本IBM科学賞受賞 (平成15年)

「ささいな発見やオリジナルな発想を大切にしながらも、実験主体のものづくりと実証的研究を重視したいと考えています。Science (知的好奇心)とEngineering (社会のニーズ)の両方の視点を持ちつつ研究を進めたいと思っています。」



固体物理学・量子力学の神秘を引き出す

—半導体超格子中のプロホフ振動—

平川一彦 教授 (生産技術研究所 情報・エレクトロニクス系部門)

日本IBM科学賞受賞 (平成17年)

「自然が訴えかけてくるものには耳を傾けるようにしています。最近、やっと自分の耳に少し自信がでてきました。」



(本講演は榊先生の本郷キャンパスにおける最終講義となります)

ナノ世界を探索し、電子工学を拓く

—時代・出会い・閃き・研鑽を礎に—

榊 裕之 教授 (生産技術研究所 情報・エレクトロニクス系部門)

紫綬褒章受章 (平成13年)、日本IBM科学賞受賞 (平成元年)、日本学士院賞受賞 (平成17年)

「電子の発見と量子力学の誕生から百年。ナノ世界は、科学者の探究の場から工学者による創造の場になりつつあります。21世紀の世界を見つめて、創意工夫によって新たな電子工学の前線を切り拓きたいものです。」

